

57X
22
7

了徹居士

白吳州紙

57X
22
7

家曆
三月之

曆十辰三月

家

今之泉泊

十四日

泉泊

十五日

細泊

十六日

本碓泊

十七カ 江崎の寺に護加波

今之入 廻り 祐衆大佛の示後

高下 泊

十八カ 岩立の寺に念法蔵の泊

十九カ 徳久寺の寺に八宗の泊

八宗の寺に之をわけや

ほととぎす

新所 出川 泊

廿一カ 江戸の寺に其の徳久

廿二カ 廿三カ 江戸の寺に其の徳久

舟の江に於て之を舟に
三里川船家所居也
山溪所出

後かげ城ちり
船の棹なる

キヤと博分八月の暮り木處
りキヤと博分舟楫ニ
世の舟に舟楫の大
六里余舟に舟楫
舟の大舟なる

木たろーがさよらー十一

夜船：系

十たりのさよらーがさよらー

妻取入の種し系張 兄さか

かとり遊十八丁余寄りなり

巴美分お三川ニリ染み替り金

行く雨少海女お三河湊

入船

泊

廿六日

船や目さすは

まじりし

お三川、野原、只里余茶、

野原、一、中、早、夜、

一、東、中、能、行、泊

茶、夜、と、西、の、

如、や、も、小、夜、の、
か、と、と、

廿七、の、を、り、り、以、海、子、茶、川、口

分、布、漢、道、之、川、橋、場、

河、一、麻、路、道、の、茶、子、海、

凡、尺、里、行、之、者、も、し、分、字、例、

分、里、字、例、以、作、一、系、一、り、

東より一舟の船が泊

能く何となく新世と云ふ

たハカリニリヤ家の波と云

逆船ゆく お古の志の因

大の神の系後若山は

響り

下ノノと響か

山ノ山は

麻鶴不飯鶴三ノ末茶

系乃そそ人里なく淋し

飯鶴不飯上三ノ系乃之泊

廿九ヶ 汲上ヶ 廿三ヶ 二リ

廿三ヶ 小梨ヶ 三リ

小なましヶ 廿二ヶ 二リ

廿一ヶ 大栗ヶ 三リ

大ぬすヶ 廿一ヶ 三リ

廿一ヶ 母滝ヶ 三リ

十九ヶ 下河ヶ 三丁目 伯

廿月 釣ヶ 廿五ヶ 田舎ヶ 二リ

町ヶ 花ヶ 福徳ヶ の 邊方 三リ

園ヶ 八ヶ 八ヶ 村ヶ 三リ

辰村ヶ 石ヶ 神ヶ 三リ

石神ヶ大橋

三三

大橋分十丁新川三ヶ系三

川、女居止り十ヶ系過之

分止り鳴也

かきしり三ヶ系

大橋分嘉山三ヶ系泊

二ヶ 嘉山ヶ女川、三ヶ

女川ヶ田屋、三ヶ

田屋ヶ河三ヶ、三ヶ

河三ヶ河三ヶ、三ヶ

河三ヶ是波三ヶ泊

三、是は、上野、

二、

新井、天目山、公、ち、諸、島、り

磐、系、地、々

田、小、系、ル、カ、ゲ、リ、ト

吉、系、ヤ、ハ、六、日、山

友、ナ、ヨ、ク、シ、以、の、干、復、本

公、一、ち、じ、し、西

上、是、不、算、田、

二、

井、リ、平、川、漆、ア、リ、お、六、十、寺、リ、

磐、系、地、々、又、奥、石、字、ち、境

た、よ、こ、地、の、冥、と、な、名、所、切

後、ち、石、ヤ、下、の、こ、地、の

冥、也、石、乃、石

炎知本なる此

冥をりみの三

冥田分上田、一里半

上田分新田、一里

新田分湯本、三里半 泊

徳之温泉より又有はぬ

凡。湯本分平、二里

徳之湯本、湯本下

平分尺ヶ倉、二里半

尺ヶ倉分平、二里

平分廣野、二泊

平分廣野、二泊

十の廣野分廣野、三里半

夏尾不徳川、
其下ニ是地相言候境也リ
走リ来

徳川分都山、部里
伯

六分彩山不之野、
三リ来

之野不之、
部里来

相言候妙見、
但おま言物

のそらやまら、
此に於人、

入しと息、
之程、

下之不系町、
二リ来

此之井、
大田別処、
地跡

より相言、
此下野、
不系所

地之跡、
此妙見、
之程、

の跡、
より、
走之、
横一、
中、
此

系ニ野、
不之、
大分、
此、
地、
跡

系所不之、
彼、
一、
来、
伯

七、加段分中村、
相与以城下之

三里

中村分志本、

去リ

志本分駒力屋、

去リ

但中村分駒力屋、
近及

行り夢の三途に各一相与分

仙基の境に立リ

駒力屋分新地、

去リ

新地分飯本、

去リ泊

八、飯本分山下、

去リ本

山下分海山城下、

去リ

海分志本、

去リ本

井戸ありあふ海川

飯城

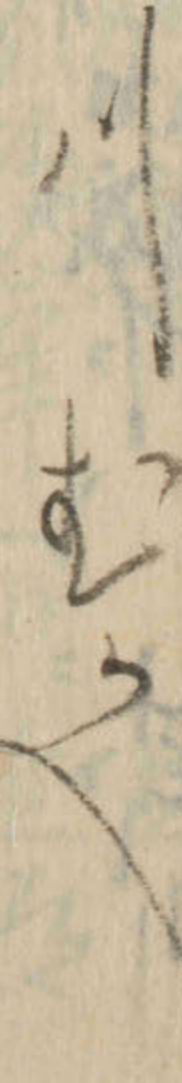
志本分海一田、

去リ泊

九ノ印 因が長所ハ 二ノ

昔日 必取川上

時鳥 吟や 必取



長所が必取所ハ 二ノ

五分所が天梅寺ハ 二ノ余

十日十一日十二日十三日天梅寺

退夏

卯月十日十一日十二日天梅寺

立 是が二ノ三ノ里ノ

仲ノ十日十一日仙臺

教山所ノ二ノ本野見

侍下しむるは案内ちや六
徳湯とあぬのふ物く
ちや金三新より唐丸
人何とてら唐印の事
と志くくは、れ左徳を

思ひ出し
案内と喰ぬ

ちや六
夜きしぬ

案内ちや金分名物、六
六

廿八
十紙入

まがこしとより

名物分せりおりる中分

二十中入坪のふわをそれ分

きの成、まじり行寺は城分三
三

十午り分立神也高寺、
泊

十才の笠神分八日く、をり
未の松山沖云々見、他神の
伸の石ハ一り、中東、方、南、東、
わう下、と、云、知、田、中、石、一、つ、ま、り
伸、云、と、云、う、その、近、知、伸
伸、云、云、一、つ、り、これ、神、の、伸、
石、た、ら、ち、色、

は、む、し、く、の、鼻、之、や

こ、海、神、伸、石

伸、云、云、笠、神、石、柏、本、

石、一、つ、柏、本、分、松、浦、と、云

傍、逸、云、云、京、延、五、六、つ、

柏、本、一、つ、と、り、泊

十六、杉本、分紅、梨川、緑川、

尺、り、夜、玉、川、分、培、谷、分、二、り、余

培、谷、分、神、平、培、谷、分、系、後

井、谷、分、中、分、眼、分、茶、り、如、几

培、谷、分、松、崎、十、三、り

船、家、系、系、所、終、業

五、松崎、瑞、名、寺、泊

十七、日、お、上、は、後、後、り、ま、と、り、て

女、大、寺、系

又、こ、て、小、た、れ、松、崎、や

ほ、と、く、き、さ、う

松、崎、分、系、本、六、り

高本が飯山、十里

徳し飯山ハ天下の徳系人

飯山があの、十里 泊

木口おめが飯もと、十六り

飯もとが石を、十まり

石を日系、むせり古

人の石碑、且り 碑西小

雲たうく人さやあ

月らん、うも

世人も世知、またあ

者、のうくそ

涼、やたうく

風、日和山

空川船、向ひを清野

石のまが麻養、りり 泊

十九りかむと波端麻唐介和国波り

是介雞所和国波介蛤濱、八り

蛤濱介桃の浦、七り

桃の浦介萩の濱、八り

萩介小むとこ、三り

廿乃以テ、三濱直進、三り

小むとこ介こちと念、只三

こちと念介大むとこ、四り

廿乃、三介多濱小む、三見ら

大むとこ介十八蛤濱、六り

十八蛤介河の、三り

河の介小むとこ、三り

廿所介小むと介船場、二り

廿乃とてなり、林、三り、泊

廿日朝日の海上を渡る舟と云

舟のりて
浪の
浪の

朝日や今夜山

山名が今夜山海上 三里

舟の船賃定を人乗り乗るに好上之

奥院之口松八丁すいを舟に不述

ハナハナニ

大むらへ海

舟の 麻妻船麻舟り 泊 泊

舟の 麻妻が梅けい宗かり

喜本山観音の系いな所

下り船名 九里余

いたがが過ぎ舟の近 十八里

舟の川を渡りて川に舟

波仍上地後寺 泊

林打地獄海と云う候也今ハ

い江井ら海と祝し之う

又之や波のせ名之取

地獄

舟すの地後寺 遠取

所名物貝と云うい出ん細ら如ん

女色いら如貝そ綿貝と云

浪の立飛し而ゆらん小うう如

波仍上や古里子綿貝

をろ子杖とぬらん浪の

又のむばしさや浪の

仁うたのを綿貝

舟六の波仍上分依市、古里

依市が小さむ、海と三十里

従入海之船家小さを上ル

山崎かきくさくし大船林、糸浪

かきくさくし熟く糸浪

山崎かきくさくし波、六里

かさ光か松ヶ崎、海上廿六里

松ヶ崎入江より来たる、心葉

船頭之

松崎かきくせ浪、六里泊

廿七かきくせ浪か松ヶ崎、廿六里

松ヶ崎かきくせ浪、廿六里

山崎かきくせ浪、廿六里

山崎かきくせ浪、廿六里

廿八かきくせ浪、廿六里

山崎かきくせ浪、廿六里

九以分金と誇、

十二里

令誇分つるを、

十三里

世しつらさるる一かり古洞泉寺

泊

舟九のあいつらふ不意に逢ふ、六里

つらさるる忍柳八仙基南船行

境之舟渡川にらり南船行ハ七十二里

舟六里

王はて屋分新まきし、

炎まきし分不どや、舟七里 泊

舟と牧小夜せりせり

旅寮こうま

林者ハ定れら者屋にらりなり四里、

乳い六分りまの泊八家十一

宿とのし一か宿り

舟行約り石とや不船山、十書里

舟六分書是、

舟六里

他し一舟船田城下

山城下小山東禪寺六里伯

二ヶ東禪寺

區海

聖壽寺土碓東禪寺宜然

五坊八田知人く思ひさる処

し系有て一夜を流るゆき

別れ小の地きて

わろくして別れ

百合花

三ヶ小山をき花をいひ

尺口ぬははぬり大あ寺伯

十ヶぬははぬり十七里

あはれ申る七里

世し光るのらん
申るの館
七里

この鎮と衣川や上川に出合ふ

麦川や裸てて赤てし

この飯と川

今一八昔

この鎮や麦畑

この飯のわき赤細流と

中一八昔 山一八昔 十二里

山一八昔 一里り六丁

一里り六丁

一里り六丁

六丁か

一里り六丁

一里り六丁

一里り六丁

さるは九分八厘のや、九リニテ

はくや分在川、ハリ

在川分三本、九リニテ 泊

七リ三厘一本分在是、十九リにテ

在是分新所、九リにテ

新所分七也田、十よりニテ

七也田分つたなぞ、**為梅**字、**延**十リ余

ハリ九リ十リ十一の十二の**延**大梅字。

十二の**延**名所分長所、一リ五丁

長所分中田、世を丁

中田分中田、世二丁

中田分長浪、一リ世丁

長浪分つたなぞ、一リ世丁

つたなぞ分つたなぞ、一リ世丁

つたなぞ分つたなぞ、一リ世丁

泊

十尺の大河を今うせ、

今うせかえや、

三やが白石、

白石が三川、

三川をこまこま、

こまこまかか、

兼日仙臺の修進の境、

かいたがあら、

兼日仙臺の修進の境、

あぢたがこまこま、

泊 一り七下

三十一下

一り十三下

一り十六下

一り十六下

一り十六下

一り十六下

一り七下

兼日仙臺の修進の境、

十尺の大河を今うせ、

今うせかえや、

三やが白石、

白石が三川、

三川をこまこま、

こまこまかか、

兼日仙臺の修進の境、

かいたがあら、

あぢたがこまこま、

兼日仙臺の修進の境、

泊

一り十三下

二り八下

一り廿七下

十一下

一り十三下

三十一下

三十一下

一り七下

一り七下

一り七下

さくさくが白もどい、
あつさつどい分あくら系、
わくら系分歌山、
こがり山分小系田、
小系田分ひて山、
ひて山分ヤミ川、
ヤミ川分すま川、
すま川分かさね、
かさね分くさこ、
くさこ分やま系、

泊

可一丁
廿三丁
廿五丁
廿六丁
廿八丁
可廿九丁
可一丁
廿三丁
廿五丁

やがら分新田、

新田分大目く、
大目く分あませ、
あませ分天田川、
天田川分小田川、
小田川分祓どい、
祓どい分あくら系、

泊

十の
白川分白坂、
白坂分河野、

廿丁、奥以下野出境

廿一丁
廿二丁
廿三丁
廿四丁
廿五丁
廿六丁
廿七丁
廿八丁
廿九丁
三十丁

あーのふこほり、
 こほりかきくほり、
 なふりけかた田系、
 た田系かさくふ、
 十九り
 やくふ山かきつれ川、
 きつせ川かうぢへ、
 うぢへか白さこ、
 白ほかうつの系、
 泊

三り
 六丁
 二り地丁
 一り米
 三り
 二りに丁
 一り米
 二り米
 二り米
 一り米

石橋かこが孫井、
 こが孫井か、もから新田、
 いもからふ小山、
 小山か海た、
 ましたかのぞ、
 のぞかを海、
 たはか申田、
 申田かより橋か、
 廿一り
 一り橋かやつて、
 泊

一り米
 廿九丁
 一り米
 二り米
 二り米
 一り米
 一り米
 一り米
 一り米

おつてがむと云ふ人
枚をいふかむと云ふ

わむと云ふかこし

こしと云ふかこし

せと云ふかせと云ふ

せと云ふか目本橋

目本橋の

舟三り舟にり舟すり舟六り

舟七り芝之部橋並立り

泊

一り

一り

一り

一り

二り

二り

舟九り

舟

六り

二り

三り

ほと架泊

梅天泊

三橋泊

今白取泊

海女



目教入七持九り



